

チツチゼミ *Cicadetta radiator* (カメムシ目セミ科)

(写真準備中)

生態情報

からだの特徴

からだの大きさ(はねの先まで)が27～33mmぐらいの小さなセミです。からだの色は黒色で銀色の毛におおわれています。はねは透明です。

すみ場所

北海道南部・本州・四国・九州に分布しています。おもに山地のアカマツ、スギ、ヒノキなどの針葉樹林に多くすんでいます。

生活のようす

成虫は年1回、7月下旬～10月に発生し、8月下旬～9月に多くみられます。鳴き声は「チィ・チィ・チィ・チィ………」で、小枝の上側にとまって鳴いていることが多いです。卵はツツジ類の細い枝に産まれます。成虫、幼虫ともに木に口を刺して樹液を吸います。

参 考

山の中で鳴き声は聞こえますが、なかなか姿をみるできないセミです。「長野県版レッドリスト」で「留意種」に選定されています。

ハルゼミ *Terpnosia vacua* (カメムシ目セミ科)

(写真準備中)

生態情報

からだの特徴

からだの大きさ(はねの先まで)が23～32mmぐらいの中型のセミです。からだの色は黒色で金色の短い毛におおわれ、メスには褐色の紋があります。はねは透明です。

すみ場所

本州・四国・九州に分布しています。おもに平地の海岸から低い山のマツ林にすんでいます。

生活のようす

成虫は年1回、5～6月下旬ごろにみられます。鳴き声は「ムゼー・ムゼー………」で晴れの時によく鳴きます。鳴くのはオスだけ合唱性があります。成虫、幼虫ともに木に口を刺して樹液を吸います。

参 考

一般的にはセミは夏に活動すると思われています。しかし、ハルゼミは活動する時期が早いこと、また、鳴き声が少し変わっていることから、セミの中ではあまり知られていない種類です。

キバネツノトンボ

Ascalaphus ramburi (アミメカゲロウ目ツノトンボ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

はねを開いた幅が 52 mm ぐらいのツノトンボの仲間です。トンボという名前がついていますが、トンボとは違って触角が長いのが特徴です。からだの色は黒色で、前ばねは透明ですが、後ろばねは黄色から褐色です。

I すみ場所

本州・九州に分布しています。おもに日当たりがよく、比較的広いススキなどが生えた草原や河原などにすんでいます。

I 生活のようす

成虫は年1回、5～6月にみられ、草の茎にとまっていることが多く、それほど長い距離は飛びません。幼虫は草むらや石の下などにかくれて、ほかの虫を捕らえて餌とします。

参 考

おもに河原の草地にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。

ヒゲナガカワトビケラ

Stenopsyche marmorata (トビケラ目ヒゲナガカワトビケラ科)



現地撮影

ヒゲナガカワトビケラの幼虫

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさが 12～22 mm、はねを開いた時の幅が 33～50 ぐらいの大きなトビケラです。からだの色は黄褐色から黒褐色で、前ばねには褐色の紋を散りばめています。幼虫は 40 mm ぐらいの大きさになり、色は黒褐色です。かたちはイモ虫型で、頭は細長く、からだは柔らかいです。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。河川の上流から下流まで普通にすんでいて、幼虫は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は流れの速い場所の石の下からみつかります。

I 生活のようす

成虫は年1～2回発生し、5～10月にみられ、夜間に明かりに飛んできます。はっきりした生活のようすはわかりませんが、一般には成虫の寿命は短く、餌も食べません。幼虫は石の下に巣を造り、流れてきた藻類や動植物の破片などを食べます。

参 考

河川の中上流域に広く分布し、よく観察される代表的な種類です。

昔から天竜川流域で「ザザムシの佃煮」として食べられてきたものは、そのほとんどは現在ヒゲナガカワトビケラの幼虫となっています。

トワダナガレトビケラ

Rhyacophila towadensis (トビケラ目ナガレトビケラ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさが9～11 mm、はねを開いた時の幅が22～30 ぐらいのトビケラです。からだと前ばねの色は黒褐色で、前ばねには明るい色の紋を散りばめています。幼虫は20 mmぐらいの大きさで、かたちはイモ虫型、色は赤褐色です。お腹の部分に糸状の鰓があります。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。河川の上流にすんでいて、幼虫は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は流れの速い場所からみつかります。

I 生活のようす

成虫は4～8月にみられます。はっきりした生活のようすはわかりませんが、一般には成虫の寿命は短く、餌も食べません。幼虫は巣を造らず、水の中の小さな虫などを捕まえて食べます。

参 考

河川環境をみる上で指標となる虫で、「きれいな水」にすむ種類とされています。

キタガミトビケラ

Limnocythere insolitus (トビケラ目キタガミトビケラ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさが9～12 mm、はねを開いた時の幅が30～35 ぐらいのトビケラです。からだの色は黒色、前ばねの色は褐色です。幼虫は15 mmぐらいの大きさで色は褐色です。足は比較的長いです。

I すみ場所

本州・四国に分布しています。河川の上流にすんでいて、幼虫は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は流れが速く、石のある場所からみつかります。

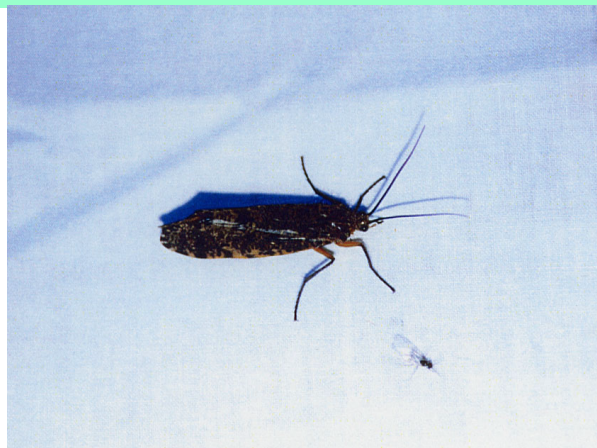
I 生活のようす

成虫は年1回、春～夏にみられ、昼間は林の中をゆつくりと飛び、夜間には明らかに飛んできます。はっきりした生活のようすはわかりませんが、一般には成虫の寿命は短く、餌も食べません。幼虫は砂や落葉などをあつめた筒状の巣を造り、そこから長い柄を石にくっつけています。巣の中から上流から流れてくる水の中の小さな虫などを捕まえて食べます。

参 考

河川環境をみる上で指標となる虫で、「きれいな水」にすむ種類とされています。

ムサキトビケラ *Eubasilissa regina* (トビケラ目トビケラ科)



現地撮影

ムサキトビケラの成虫

生態情報

I からだの特徴

からだの大きさが 20～22 mm、はねを開いた時の幅が 50～60 mm ぐらいの大きなトビケラです。前ばねは黄色で黒褐色の紋を散りばめ、後ろばねは黒褐色で黄色い帯があります。幼虫は 25 mm ぐらいの大きさになり、かたちはイモ虫型、色は薄い茶色です。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。山地の河川の上流にすんでいて、幼虫は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫はおもに流れの緩やかな場所からみつかります。

I 生活のようす

成虫は年1回、6～9月ごろにみられ、昼間は川のまわりでじっとしていますが、夜間に明かりによく飛んできます。幼虫は枯れ葉などで巣を造ります。

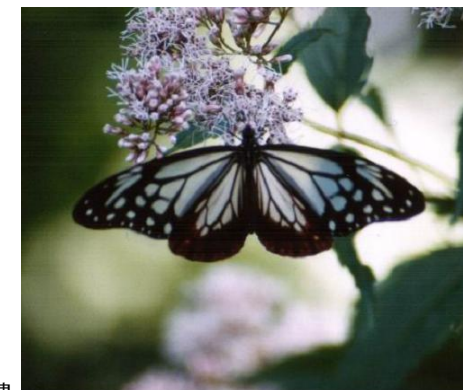
参 考

山地の河川の上流域を代表する虫の一つです。

アサギマダラ *Parantica sita niponica* (チョウ目マダラチョウ科)



撮影：大野 豊



撮影：中村 寛志

生態情報

I からだの特徴

はねを開いた時の幅が 10 cm 以上になる大きなチョウです。はねは前ばねが黒、後ばねは茶色ですが、中央部からつけねにかけて白く透き通るような部分があります。

I すみ場所

長い距離を移動するチョウとして知られていて、日本全国にみられますが、気温の低い時期は南へ移動するため北海道から東北地方ではほとんどみられません。すみ場所も高い山から市街地までいろいろです。

I 生活のようす

成虫は年2回ぐらい発生し、5～10月にみられます。飛びかたはゆっくりで、ヒヨドリバナ、ノリウツギなどいろいろな花の蜜を吸います。幼虫はガガイモ科のキジョランなどの葉を食べます。

参 考

渡り鳥のように長い距離を移動するチョウで、春から夏にかけて北の方へ、秋は南の方へ移動します。どのくらい移動するかは全国で調査していて、これまで台湾で印をつけたものが近畿地方で捕まえられたり、沖縄で印をつけたものが東北地方で捕まえられたりしています。

ヒメシジミ *Plebejus argus* (チョウ目シジミチョウ科)



現地撮影

生態情報

I からだの特徴

はねを開いた時の幅が30mmぐらいの小さなチョウです。はねの表面はオスが青色、メスが黒褐色で、裏面がオスは灰白色、メスは褐色でともに外側に橙色の帯があります。

I すみ場所

北海道・本州・九州に分布しています。主に河川に沿った日当たりが良い河原の草地などにすんでいます。

I 生活のようす

成虫は年1回、6月下旬～7月下旬にみられ、草むらの低いところをゆっくりと飛びまわります。幼虫はキク科、マメ科、バラ科、ヤナギ科など草地に生育するいろいろな植物の葉を食べます。

参 考

おもに河川の河原の草地にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。また、全国的に少なくなっているチョウで、「環境省レッドリスト」で「準絶滅危惧種」に、「長野県版レッドリスト」で「留意種」に、「レッドデータブックにいがた」で「準絶滅危惧」に選定されています。

コムラサキ *Apatura metis* (チョウ目タテハチョウ科)



撮影：中村 寛志



撮影：大野 豊

生態情報

I からだの特徴

はねを開いた時の幅が60～70mmぐらいの中型のチョウです。はねは、オスは褐色に茶色の帯があり、褐色部分が紫色に美しく輝きます。メスも同じ色を持ちますが紫色には輝きません。

I すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。おもに河川に沿ったヤナギ類などのまわりにすんでいます。

I 生活のようす

成虫は年3回、5月下旬～10月上旬にみられ、朝はヤナギの樹液を吸い、日中はヤナギのまわりを活発に飛び回る姿をみかけます。幼虫はヤナギ類の葉を食べます。

参 考

河川の溪流に沿って生育するヤナギ類を食べるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。

コヒョウンモン *Brenthis ino* (チョウ目タテハチョウ科)



現地撮影

生態情報

Ⅰ からだの特徴

はねを開いた時の幅が40～50 mmぐらいの中型のチョウです。はねは^{だいだいいろ}橙 色 で、「ひょうもん」があります。

Ⅰ すみ場所

北海道と本州の関東地方北部から中部山岳地帯に分布しています。おもに溪流沿いの日当たりのよい場所や高地の湿地などにすんでいます。

Ⅰ 生活のようす

成虫は年2回発生し、5～8月にみられ、クガイソウやオニシモツケなどの花の蜜を吸います。飛びかたはゆっくりです。幼虫はバラ科のオニシモツケの葉を食べます。

参 考

おもに河川の河原草地にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。「レッドデータブックにいがた」で「準絶滅危惧」に選定されています。

オオイチモンジ *Limenitis populi* (チョウ目タテハチョウ科)



撮影:大野 豊

生態情報

Ⅰ からだの特徴

はねを開いた時の幅が70 mmぐらいのやや大きなチョウです。はねは黒褐色で、青色の輝きと白い帯状の紋があります。後ろばねの外側には鮮やかな橙 色の帯があります。

Ⅰ すみ場所

北海道・本州に分布しています。おもに山地帯から亜高山帯の高い山の溪流沿いにすんでいます。

Ⅰ 生活のようす

成虫は年1回、6月下旬～7月中旬にみられ、高い木のこずえのまわりを速く飛び回ります。幼虫はドロノキ、ヤマナラシなどの葉を食べます。

参 考

おもに溪流にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。また、全国的に少なくなっているチョウで、「環境省レッドリスト」で「絶滅危惧Ⅱ類」に、「長野県版レッドリスト」で「準絶滅危惧」に選定されています。